JR東日本グループレポート 2023
INTEGRATED REPORT
2023年9月発行

東日本旅客鉄道株式会社
〒151-8578
東京都渋谷区代々木二丁目2番2号
http://www.jreast.co.jp/

JR東日本グループレポート 2023 INTEGRATED REPORT

JR東日本グループレポート
INTEGRATED REPORT 2023

VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C017928

目次・編集方針

イントロダクション

2　グループ理念、行動指針、めざす姿
3　マテリアリティ

JR東日本グループの価値創造

4　トップメッセージ
12　価値創造の歴史とこれから
14　積み上げてきた「強み」
16　価値創造を支える資本
18　価値創造モデル
20　グループ経営ビジョン「変革2027」
23　財務・投資戦略
28　価値創造の基盤（コーポレート・ガバナンス）
34　社外取締役座談会

事業戦略

38　JR東日本グループの事業セグメント
40　運輸事業
44　流通・サービス事業
47　不動産・ホテル事業
51　特集
TAKANAWA GATEWAY CITYにおける価値創造
54　IT・Suica／再生可能エネルギー／国際事業

成長の基盤となる戦略

58　人材戦略
60　DX・知的財産戦略

サステナビリティ

62　サステナビリティ戦略、推進体制
マテリアリティを構成するサブマテリアリティと目標
64　安全安心なインフラを社会のために
79　活力ある社会のために
85　豊かな地球環境のために
96　新たな技術とサービスを社会のために（イノベーション）
98　すべてのグループ社員が生き生きと活躍するために（エンゲージメント）
104　経営の信頼を高めるために

データ

110　グループ会社一覧
111　非財務情報ハイライト
112　11ヵ年財務サマリー
114　財務諸表
119　会社組織図
120　会社データ
121　株式メモ
122　第三者保証報告書

編集方針～発行にあたって

執行役員
グループ経営戦略本部
経営企画部門長
高岡　崇

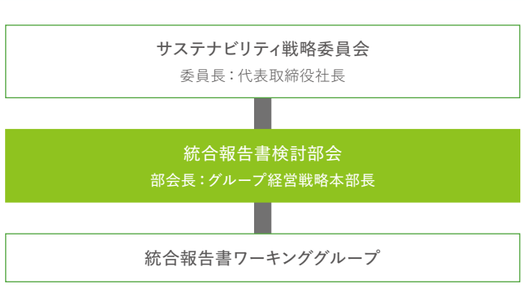
当社グループが社会に対して新たな価値を提供し、成長し続けるためには、変化に俊敏に対応するだけではなく、その変化を先駆けて捉え、変革を続けることが必要だと考えています。

統合報告書発行から4年目となる2023年度版では、グループ経営におけるマテリアリティと価値創造モデルを掘り下げて明確化したうえで、戦略・施策とサステナビリティの取組みを体系的にご説明する構成としました。そして当社グループならではの取組みとして、第一線の社員が自らの発意で事業・会社の垣根を越えた価値創造に挑戦し、グループ全体の「融合と連携」を深め広げていることをご理解いただくため、全編にわたって人的資本（=グループ社員）をストーリーの軸としました。「信頼」「社員」「ネットワーク」という当社グループの強みを武器に、各事業の戦略と総合力により、将来に向けてさらなる成長をめざすストーリーをご確認ください。コロナ禍の2020年度と2021年度に会社発足以来初の赤字を計上した当社グループは力強くモードチェンジし、再び大きく成長していきます。

なお、本レポートは、当社が鉄道事業法令に基づき公表する「安全報告書」を兼ねています。

今後とも、当社グループのビジネスモデルと事業運営へのご理解を深めていただくとともに、企業価値の向上と地域社会の持続的な発展への好循環につなげていけるよう、本レポートが多様なステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションの一助になれば幸いです。

制作体制



2023年度版の制作にあたって、当社グループのマテリアリティや価値創造モデルを軸とした価値創造のストーリーについて集中的に議論するため、サステナビリティ戦略委員会（P.62）のもとに、本社部門長・部長をメンバーとする「統合報告書検討部会」を設置しました。議論内容を取締役をはじめとする経営層に報告し、フィードバックを受けて、ブラッシュアップしました。

参考にしたガイドライン

国際統合報告フレームワーク［国際統合報告評議会（IIRC）］
価値協創ガイダンス［経済産業省］
環境報告ガイドライン（2018年版）［環境省］

報告対象範囲等

対象期間

2022年4月1日～2023年3月31日
（実績データに関しては、2022年度を対象期間としましたが、活動内容については一部それ以前のもの、及び本レポート発行直近のものも含んでいます）

対象範囲

東日本旅客鉄道株式会社
JR東日本グループ（連結子会社（69社））
経済性報告：当社、連結子会社、持分法適用会社（11社）
環境報告：　当社、国内連結子会社（66社）
社会性報告：当社、連結子会社

公表数値

公表数値については、端数処理の関係で合計と内訳数値が一致しない場合があります。

コーポレートサイト

日本語
https://www.jreast.co.jp/company/

英語
https://www.jreast.co.jp/multi/en/

Our Purpose

［ グループ理念 ］

私たちは「究極の安全」を第一に行動し、
グループ一体でお客さまの信頼に応えます。
技術と情報を中心にネットワークの力を高め、
すべての人の心豊かな生活を実現します。

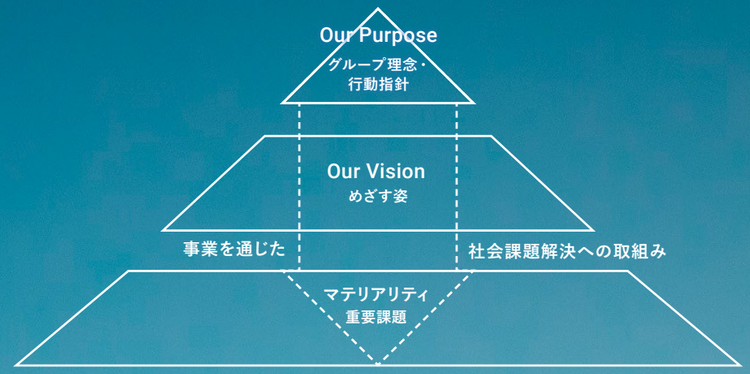
［ 行動指針 ］

安全の追求	「究極の安全」を追求し、お客さまに安心を届けます。
お客さま志向	質の高いサービスを提供し、お客さまのご期待に応えます。
地域密着	ネットワークの力を活かし、地域社会の発展に貢献します。
自主自立	広い視野と挑戦の志を持ち、自ら考え、自ら行動します。
グループの発展	社会的責任を果たし、グループ一体で持続的な成長をめざします。

Our Vision

［ めざす姿 ］

「ヒト（すべての人）」を起点に「安全」「生活」
「社員・家族の幸福」にフォーカスし、
都市と地方、そして世界を舞台に、
“信頼”と“豊かさ”という価値を創造していきます。



マテリアリティ

グループ理念やグループ経営ビジョンでめざす姿に向けて、以下のマテリアリティ（重要課題）を定めています。
JR東日本グループは、お客さまの日常生活と広く関わり合いを持ち、地域や社会に不可欠な事業を営んでいます。事業を通じて社会的課題の解決に取り組み、地域社会の持続的な発展に貢献することにより、お客さまや地域の皆さまからの信頼を高め、グループの持続的な成長につなげます。

安全安心なインフラを社会のために
安全を経営のトッププライオリティとし、安全安心な社会インフラを提供します。

活力ある社会のために
すべての人を包摂する便利で快適な質の高いサービスを提供します。
地域と協働して活気あるまちをつくります。

豊かな地球環境のために
気候変動による事業影響を念頭に、カーボンニュートラルの実現やエネルギーの安定確保を行います。また資源循環社会の実現をめざした取組みをリードします。

新たな技術とサービスを社会のために（イノベーション）
すべての事業で新技術・DXへ積極的に取り組み、また既存ビジネスの枠組みを超えてチャレンジすることにより、新たなサービスの創出と早期社会実装を実現します。

すべてのグループ社員が生き生きと活躍するために（エンゲージメント）
グループ社員一人ひとりが多様性を活かし、やりがいをもって能力を発揮できる企業にします。

経営の信頼を高めるために
新たなチャレンジを促進するための変化に強いガバナンス体制を構築するとともに、人権を尊重し、信頼される企業経営を行います。

マテリアリティの特定プロセスと考え方（P.62）